

作成日：2016年07月08日

改訂日：2020年07月28日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名称：ガンクリーナー2

管理番号3121K-2

製品種類：

塗膜剥離剤

主な用途

推奨用途：塗付剥離用

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称：三彩化工株式会社

住所：大阪市北区大淀中3-5-30

担当部署：技術開発部

電話番号：06-6451-7851

FAX：06-6451-1187

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

急性毒性(吸入):区分 4

皮膚腐食性/刺激性:区分 2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:区分 2A

発がん性:区分 1A

生殖毒性:区分 1B

特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分 1

特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分 3(麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露):区分 1

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性):区分 3

水生環境有害性 長期(慢性):区分 3

GHSラベル要素



注意喚起語:危険

危険有害性情報

吸入すると有害(気体、蒸気、粉じん及びミスト)

皮膚刺激

強い眼刺激

発がんのおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

臓器の障害

眠気又はめまいのおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

水生生物に有害

長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 環境への放出を避けること。
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。
 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
 気分が悪いときは医師に連絡すること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤で洗うこと。
 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
 口をすすぐこと。
 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。

保管

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

特定の健康有害性

有機溶剤中毒を起こす恐れがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：

混合物

成分名	含有量 (%)	CAS No.
ジクロロメタン	95	75-09-2
メタノール	1 - 5	67-56-1

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。

4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

付着物を清浄な乾いた布で素早く拭き取る。
 溶剤、シンナーを使用してはならない。
 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。
 大量の水及び石鹼又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪いときには医師の診断を受ける。

眼に入った場合

直ちに清浄な流水で15分以上洗眼する。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。まぶたの裏まで完全に洗う。

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

嘔吐物を飲み込ませてはならない。

医師の指示のない場合は、吐かせてはならない。

負傷者を安静にし直ちに医師の診察を受ける。

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

適切な換気を確保する。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を使用すること。

周辺設備に適した消火剤を使用する。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

危険を避けられれば燃焼源の供給を止める。

消火水の下水への流入を防ぐ。

指定の消火剤を使用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。

作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。

こぼれた場所はすべりやすいため注意する。

換気不十分な場所で漏洩を処理するときは自給式呼吸保護具を着用する。

環境に対する注意事項

漏れ出した物質の河川、下水、排水溝、低地への流出を防止し、環境への影響を起こさないよう注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて、容器に回収する。

多量に流出した場合、盛土で囲ってのち処理する。

スコップ、ウエス等で容器に回収する。

回収物はラベルを貼って密閉容器に保管し、安全な場所に移す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

(局所排気、全体換気)

排気/換気設備を設ける。また、容器はその都度密栓する。

(注意事項)

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

安全取扱注意事項

- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 指定された個人用保護具を使用すること。
- 取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。

保管

安全な保管条件

- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- 施設して保管すること。
- 日光の直射を避ける。通風のよいところに保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度

- (メタノール)
- 作業環境評価基準(1995) $\leq 200\text{ppm}$
- (ジクロロメタン)
- 作業環境評価基準(2004) $\leq 50\text{ppm}$

許容濃度

- (メタノール)
- 日本産衛学会(1963) 200ppm ; $260\text{mg}/\text{m}^3$ (皮)
- (ジクロロメタン)
- 日本産衛学会(1999) 50ppm ; $170\text{mg}/\text{m}^3$; (最大値) 100ppm ; $340\text{mg}/\text{m}^3$ (皮)
- (メタノール)
- ACGIH(2008) TWA: 200ppm ;
- STEL: 250ppm (頭痛; 眼障害; めまい; 吐き気)
- (ジクロロメタン)
- ACGIH(1997) TWA: 50ppm (一酸化炭素ヘモグロビン血症; 中枢神経系損傷)
- 注釈(症状、摂取経路など)
- (メタノール)
- 皮膚吸収

ばく露防止

設備対策

- 屋内作業の場合は、局所排気装置などにより作業者が暴露から避けられるようにする。タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所、特に底部まで充分に換気できる装置を取り付ける。

保護具

呼吸用保護具

- 有機ガス用防毒マスクを着用する。密閉された場所では送気マスクを着用する。

手の保護具

- 有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。

眼の保護具

- 保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

皮膚及び身体の保護具

- 保護衣を着用する。(化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。)

衛生対策

- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 取扱い後はよく手を洗う。
- 保護具は、そのほとんどが直接剥離剤に触れると腐食されるため、剥離剤が付着した場合は直ちに布な

どで除去し、水洗いした後に再使用する。著しく膨潤、又は、溶解している場合は、使用を中止する。
保護具は定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：液体

色：無色

臭い：芳香臭

pH：適用外(50%水分散液で9.0[代表値])

沸点又は初留点：40.2°C[参考値]

引火点：なし

自然発火点：640°C[参考値]

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界：

爆発下限：14vol %

爆発上限：25vol %

蒸気圧：46500 Pa(20°C)[参考値]

密度及び/又は相対密度：1.3(20°C)[参考値]

溶解度：

水に対する溶解度：難溶

10. 安定性及び反応性

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性

標準的条件では危険な反応はしない。

危険有害な分解生成物

炭素酸化物

塩素系ガス

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

(メタノール)

human LD50=ca. 1400mg/kg (DFGOT vol.16, 2001)

(ジクロロメタン)

rat LD50=2280mg/kg(male), 2120mg/kg(male) (EHC 164, 1996; NITE初期リスク評価書, 2005)

急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]

(メタノール)

rabbit LD50=15800mg/kg (DFGOT vol.16, 2001)

急性毒性(吸入)

[日本公表根拠データ]

(メタノール)

vapor:rat LC50>31500ppm/4hr (DFGOT vol.16, 2001)

(ジクロロメタン)

vapor:rat LC50=18371ppm/4hr(雄, 換算値) (EHC 164, 1996; NITE初期リスク評価書, 2005); < 飽和蒸気圧濃度 (574109ppm (25°C))の90%

労働基準法: 疾病化学物質

ジクロロメタン; メタノール

局所効果

皮膚腐食性/刺激性

[日本公表根拠データ]

(ジクロロメタン)

ラビット 強度又は中等度の刺激性 (DFGOT vol. 1, 2016, Access on May 2017; NITE初期リスク評価書, 2005)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[日本公表根拠データ]

(メタノール)

ラビット 区分2:Draize test (EHC 196, 1997)

(ジクロロメタン)

ラビット 軽度から中等度の炎症, 中等度の刺激性 (いずれもDFGOT vol. 1, 2016, Access on May 2017)

呼吸器感作性又は皮膚感作性データなし

生殖細胞変異原性

変異原性が認められた化学物質 [厚労省局長通達]

(ジクロロメタン)

発がん性

[日本公表根拠データ]

(ジクロロメタン)

cat.1A; IARC Gr.2A (IARC 110, 2016); NTP R (NTP RoC, 14th, 2016); EPA L (IRIS, 2011)

(ジクロロメタン)

IARC-Gr.2A: ヒトに対しておそらく発がん性がある

(ジクロロメタン)

ACGIH-A3(2015): 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

(ジクロロメタン)

日本産衛学会-2A: 人におそらく発がん性があると判断できる証拠が比較的十分な物質

(ジクロロメタン)

EU-発がん性カテゴリ2: ヒトに対する発がん性が疑われる物質

労働基準法: がん原性化学物質

ジクロロメタン

生殖毒性

[日本公表根拠データ]

(ジクロロメタン)

cat. 2; ヒト 産衛学会許容濃度の提案理由書, 2005; SIAP, 2011; NITE初期リスク評価書, 2005; DFGOT vol. 1, 2016, Access on May 2017; ACGIH 7th, 2015; 環境省リスク評価第3巻, 2004

(メタノール)

cat. 1B; mouse: PATTY 5th, 2001

催奇形性データなし

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(ジクロロメタン)

中枢神経系、呼吸器 (NITE初期リスク評価書, 2005; EHC 164, 1996)

(メタノール)

中枢神経系、視覚器、全身毒性 (DFGOT vol.16, 2001)

[区分3(麻酔作用)]

[日本公表根拠データ]

(ジクロロメタン)

麻酔作用 (NITE初期リスク評価書, 2005; EHC 164, 1996)

(メタノール)

麻酔作用 (PATTY 5th, 2001)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(ジクロロメタン)

中枢神経系、肝臓、生殖器(雄性)(NITE初期リスク評価書, 2005; EHC 164, 1996; 環境省リスク評価第3巻, 2004; 産衛学会許容濃度の提案理由書, 1999)

(メタノール)

中枢神経系、視覚器(ACGIH 7th, 2001)

誤えん有害性データなし

その他情報

この製品自体のデータは得られていない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

水生生物に有害

長期継続的影響によって水生生物に有害

水生環境有害性 短期(急性) 成分データ

[日本公表根拠データ]

(ジクロロメタン)

甲殻類(オオミジンコ) LC50=27mg/L/48hr (Canada PSAR, 1993; OECD SIDS, 2011)

(メタノール)

甲殻類(ブラインシュリンプ) LC50=900.73mg/L/24hr (EHC196, 1998)

水生環境有害性 長期(慢性) 成分データ

[日本公表根拠データ]

(ジクロロメタン)

甲殻類(オオミジンコ) LC50=27mg/L/48hr (Canada PSAR, 1993; OECD SIDS, 2011)

水溶解度

(ジクロロメタン)

1.3 g/100 ml (20°C) (ICSC, 2017)

(メタノール)

100 g/100 ml (PHYSPROP_DB, 2009)

残留性・分解性

(ジクロロメタン)

急速分解性なし(BODによる平均分解度:13%(化審法DB, 1986))

生体蓄積性

(ジクロロメタン)

log Pow=1.25 (ICSC, 2017); BCF=40 (Check & Review, Japan)

(メタノール)

log Pow=-0.82/-0.66 (ICSC, 2000)

他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

その他情報

この製品自体のデータは得られていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

廃液、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律や関係する法規に従って処理を行うか、委託する。

容器、機器、装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝にそのまま流さない。
 汚染容器及び包装
 空容器は内容物を完全に除去してから処分する。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号：2810
 正式輸送名：
 その他の毒物、液体、有機物、N.O.S.(ジクロロメタン)
 分類または区分：6.1
 容器等級：III
 指針番号：154
 特別規定番号：223; 274

環境有害性

MARPOL条約附属書III - 個品有害物質による汚染防止

海洋汚染物質（該当/非該当）：非該当

バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード

有害液体物質(Y類)

ジクロロメタン; メタノール

15. 適用法令

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

特化則 特定化学物質 第2類 特別有機溶剤等

ジクロロメタン

有機則に該当しない

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

ジクロロメタン; メタノール

名称通知危険/有害物

ジクロロメタン; メタノール

健康障害防止指針公表物質(法第28条第3項)

ジクロロメタン

化学物質管理促進(PRTR)法

第1種指定化学物質

ジクロロメタン

消防法に該当しない。

化審法

優先評価化学物質

メタノール

大気汚染防止法

有害大気汚染物質/優先取組

ジクロロメタン

特定物質

メタノール

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法

毒物類 毒物 分類6 区分6.1

航空法

毒物類 毒物 分類6 区分6.1

廃棄物処理法

特別管理産業廃棄物:特定有害産業廃棄物

ジクロロメタン

土壌汚染対策法

第一種特定有害物質 揮発性有機化合物

ジクロロメタン

水質汚濁防止法

有害物質

ジクロロメタン

16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (6th ed., 2015), UN
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 20th edit., 2017 UN
Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)
2016 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2019 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7253 : 2019

JIS Z 7252 : 2019

Supplier's data/information

製品評価技術基盤機構:GHS分類データベース

溶剤ポケットブック」有機合成化学協会編

日本塗料工業会「GHS対応 MSDS・ラベル作成ガイドブック」

化学工業日報社「ラベル・製品安全データシート作成実務必携 GHS対応国内版」

安全衛生情報センター

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。